

(第7号様式の2)

事業報告書

(※必要に応じて枠を広げてご記入ください。)

1 事業名	女性の自立支援、食料支援で繋がり困窮の連鎖を断ち切る！
2 実施期間	2023年7月 ~2023年11月

事業内容	<p>①具体的な実施内容（対象者や実施場所、何をいつ実施したかなど）</p> <ul style="list-style-type: none"> チラシ A4 サイズ 10,000 部作成、その中の 3,000 部を両面印刷にし、裏面には女性を元気にする会の活動実績を掲載し配布を行いました。 <p>9/27 行政機関へのイベント説明会（50 部） 10/6 映画「遠いところ」から見えてくるもの～そして何をすべきか～意見交換会（250 部） 10/21 母と女性教職員の会大分大会（200 部） 11/14 おきなわの未来の為にプロジェクト会議（15 部） 11/15 子ども未来応援パネル展（50 部） 11/18 沖縄県若年にんしん SOS 事業サポート研修（50 部）</p> <p>表面のみの印刷 7,000 部の配布に関しては</p> <p>9/5 那覇市こどもみらい部 こども政策課 200 部、なは女性センター100 部、なは市民活動支援センター50 部 9/6 沖縄県労働福祉基金協会 100 部、パーソナルサポートセンター50 部、那覇市社会福祉協議会 50 部、那覇市 CSW・民生委員へ 50 部、那覇市母子会 50 部、ゆいはあと与那原 50 部 9/11 ゆいはあと本部 50 部、名護市社会福祉協議会 50 部、名護市母子会 50 部 9/13 フードバンクセカンドハーベスト 50 部 9/14 KARIOYA Beauty BASE 100 部 9/14 北谷町役場 100 部 9/19 沖縄女子学院 50 部 9/21 おきなわ子ども未来ネットワーク 50 部 沖縄本島内のコンビニエンスストアの女子トイレ（300 部） 10/3 県営鳥堀市街地住宅 160 部 10/3 県営あけぼの市街地住宅 100 部 10/3 浦添市民住宅子育て支援港川宿舎 80 部 10/16 沖縄県就職・生活支援パーソナルサポートセンター南部（50 部） 11/28 那覇商業高等学校（30 部） 11/29 沖縄本島内A&Wの女子トイレ個室（100 部） 11/29 那覇市母子生活支援センターさくら（50 部）</p> <p>引き続き、配布や掲載を行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 宅食支援配達時、ヒアリングした訪問先の支援者データを個人調査表（紙ベース）に手書き記入しております。今まで訪問した約 1600 世帯のデータをパソコンに入力しデータベース化が実現できた。（申込理由、家族構成、通院歴があるのか、子供は学校に行っているのか、仕事内容、心配毎等） <p>②事業の周知方法</p> <p>チラシ配布掲載等を行う事により、県内在住の困窮・貧困世帯や孤立している世帯、行政から支援が受けられない複雑な世帯等、より多くの世帯へ周知できるようなり、沢山の人と繋がる事が出来た。</p>

4 今回の達成目標とその確認方法

- ① 今回の達成目標（事業実施年度内に達成したい目標）
- ・チラシの内容をアップデートし、10,000 部作成し、3000 部は両面印刷にし裏に活動内容を掲載しました。7000 部は表面だけの印刷にし、コンビニや公官庁等に配布し、その他必要に応じて配布掲載していきます。
 - ・支援者の個人調査表をデータベース化することができた。
- ② 確認方法（達成目標が達成したかどのように確認（測定）したのか）
- ・完成したチラシの提出及び配布先と枚数を報告書に記載（別紙参照）
 - ・訪問先の家族の情報をデータベース化し画像として提出



5 上記4の目標の達成度	100 %
6 評価	<p>① 良かった点、工夫したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネット環境がない孤立、困窮しているご家庭でも、チラシを配布・掲載・ポスティングすることにより繋がることが出来た。 ・行政から支援を受けられない複雑な事情を抱える世帯とも繋がることが出来た。 ・施設、女子学院、高校等に配布することにより、卒業後何か困ったことがあれば頼れるところがある場所として若年層にも周知できたこと。 ・個人調査表をデータベースすることにより、市町村毎に年齢や困窮の傾向を分析し把握することができる。 <p>② 苦労したこと、改善点、今後に活かしたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの宅食支援配達した世帯の情報の入力作業に時間を要してゐる事。 ・困窮している地域には引き続き、ポスティング、掲示板掲載などで周知していく。 ・今後、データベース化を基に、年齢層や負の連鎖をデータで把握することができるで地域の特性や困窮の原因を数字で出すことができる。
7 事業の効果・今後の展開(継続、内容変更、終了など)	<p>① 事業の効果（対象や地域、社会にどう貢献したかなど）</p> <p>ネット環境がない孤立、困窮しているご家庭でも、チラシを配布・掲載・ポスティングすることにより繋がることが出来、必要に応じて行政に繋げる事ができた。</p> <p>② 今後の展開</p> <p>10代の女性からのSOSが増えてきている。ヤングケアラや家族からの虐待等で緊急性を要する場合、手続きが済むまでの間だけでも、落ち着く場所があればいいなと思う。</p>
8 その他の意見、感想など	最近では、年齢問わず単身、既婚、未婚、若年と幅広くSOSの申し込みがきます。孤独・孤立している女性が多く、頼れるところ、居場所、話せる相手がいれば精神的な不安や悩み事も解決に導くのではないかと、実際に会ってみて感じることです。

9 事業実施に関して協力（連携）した行政機関・他団体の有無。該当する箇所に□等を記入してください。）、協力の内容について記入してください。

行政の協力（情報共有、ヒアリング 企画立案に協力 告知の協力

その他（

))

他団体の協力（情報共有、ヒアリング 企画立案に協力 告知の協力

資金提供

その他（

))

無し

行政や他団体への今後の連携についての期待・要望など

〔食料支援で繋がった女性を自立する為に、行政や他団体の協力も必要。〕

〔当団体ではできない事は協力して連携をとっていきたい。〕